

# 新クルーズ学

49

2022/10/10



夜行フェリー「フェリーた。次に船長からは操船方法やレーダーの見方についての説明がありました。参加した学生の中には自動操船の研究をしてる者もあり、実際の船の最新の操船装置を見て、その活用法の説明を受けて、興味津々の様子でした。

「フェリーた。次に船長からは操船方法やレーダーの見方についての説明がありました。参加した学生の中には自動操船の研究をしてる者もあり、実際の船の最新の操船装置を見て、その活用法の説明を受けて、興味津々の様子でした。

フェリーふくおか



もあり、卒業した先輩がたくさん働いています。ます建造中の本邦初のLNG燃料フェリー「さんふらわあくれない」の内部を見学させてもらい、その後、造船所で働く若い技術者の話を聞かせてもらいました。

## 現場を見て学ぶ大事さ

中学や高校では修学旅行がありますが、大学になると学校単位での学生旅行はなくなり、研究室旅行や気の合った友ちだ同士での卒業旅行などが行われる程度となります。

そんな状況のもと古巣の大学の後輩教授から頼まれて、船舶工学を学ぶ大学生のための研修旅行を企画することになりました。実際に運航されている船を見ること、その船の建造される造船所の仕事を実際に見ること、船舶工学という専門的な学問を学ぶ上でとても大事です。百聞は一見にしかずの諺通り、直



「フェリーふくおか」のブリッジで、船長と機関長の説明を真剣に聞く学生たち

この後、船内の各種の船室、公室などを見学した後、会議室で旅客本部長から「フェリー講座」と題する講義を拝聴しました。名門大洋フェリーの歴史と現状、カーフェリーの特徴と社会的役割、フェリーによる旅客輸送の特徴、環境対策、荷役の効率化などについて詳しく知ることができました。

大阪南港を出港後、レストランでみんな揃って夕食。コロナ禍が長く続いて学生同士で飲む機会も少なかったためか、楽しい歓談が続きました。明石海峡を通過時にはデッキに出て橋を見上げ、明石の町の明かりも綺麗でした。

翌朝、北九州の新門司港に到着して、下関の三菱造船所まで移動し、現場を見ることは大学教育においても大事なと実感させられました。

## 船舶技術系大学生のための研修旅行